

都城工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	英文法 I
科目基礎情報					
科目番号	0010		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	機械工学科		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	後期:2	
教科書/教材	MY WAY English Expression I New Edition (三省堂) 978-4-385-76466-5 / MY WAY English Expression I New Edition WORKBOOK (三省堂) 978-4-385-53795-5 / クラウン総合英語 第3版 (三省堂) 978-4385200996				
担当教員	松川 兼大				
到達目標					
<p>1. 文型や時制といった英文法の根幹にあたる概念について学習し、それらの基本的な用法を理解することができる。</p> <p>2. 助動詞を用いて細かなニュアンスを表現したり、能動態と受動態を区別し互いに書き換えたりすることができる。</p> <p>3. 英文法の基礎的な知識を活用して、実際の英語運用に役立てることができる。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	文法知識にもとづいて英文の主意を把握し、またわからない語句を調べることで正確な意味を理解できる。		文法知識にもとづいて英文の主意を把握し、またわからない語句を調べることで、ほぼ正確な意味を理解できる。		文法知識にもとづいて英文の意味を推測し、またわからない語句を調べることで、ある程度の意味を理解できる。
評価項目2	50～60語程度のまとまった文章を、読み手に伝わるように文法的に正しい英語で書くことができる。		30～40語程度のまとまった文章を、読み手に伝わるようにおおむね文法的に正しい英語で書くことができる。		20～30語程度の文章を、部分によっては文法的に正しい英語で書くことができる。
評価項目3	事前に準備すれば、聞き手に伝わりやすい構成を考えて、自分の伝えたい事柄をほぼ文法的に正しい英語で話すことができる。		事前に準備すれば、自分の伝えたい事柄をおおむね文法的に正しい英語で話すことができる。		事前に準備すれば、文法を意識して自分の伝えたい事柄を最低限英語で話すことができる。
評価項目4	相手が明瞭な英語を話していれば、文法知識にもとづいて発話の内容をほぼ正確に理解できる。		相手が明瞭な英語を話していれば、文法知識にもとづいて発話の内容をおおむね理解できる。		相手が明瞭な英語を話していれば、文法知識にもとづいて発話の内容を推測することができる。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	英語の4技能(読む・書く・話す・聞く)の土台となる文法事項を体系的に習得することを目的とする。				
授業の進め方・方法	<p>1. 主に前半はパワーポイントを用いて文法事項の解説、後半は問題演習という形で授業を進めていく。</p> <p>2. 教科書の内容に補足したり練習問題を追加したりするので授業用ノートを用意すること。</p> <p>3. 電子辞書を毎回かならず持つてくること。また日頃から辞書を引く習慣を身につけること。</p> <p>4. 本科目は学修単位科目であるため、事前学習・事後学習として毎回課題を与える(詳細については初回の授業時に連絡する)。</p> <p>5. 各Lesson左ページの文法解説に目をとし、練習問題を解いたうえで授業に出席すること。</p> <p>6. 授業中に理解できなかった部分については、参考書を活用して授業後に復習するよう努めること。</p> <p>7. ワークブックを随時回収し日頃の学習状況をチェックするので、その他の提出課題と合わせて確実に取り組むように心がけること。</p>				
注意点	<p>1. 追試験は正当な理由がある場合のみ受験が認められる。</p> <p>2. 学年末の成績評価が60点未満の者は次年度に再試験を受験することができる。</p> <p>3. 後期中間試験と学年末試験の2回の定期試験のうち、学年末試験についてはMicrosoft Formsを用いた通常の課題形式で実施する。</p>				
ポートフォリオ					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	授業計画の説明、授業の導入 Get Ready! Part 1 (1) 品詞 (2) 人やものなどを表す代名詞 (3) 数えられる名詞と数えられない名詞 (4) 冠詞 (5) 句と節 (6) 接続詞	授業計画・達成目標・成績評価等の説明を聞き、授業概要を理解する。	
		2週	Get Ready! Part 2 (1) 語の並べ方 (2) 代表的な5種類の語句の並べ方 (文型)	英語の基本的な語順と文型 (SV, SVC, SVO) についての理解を深める。	
		3週	Get Ready! Part 2 (1) 語の並べ方 (2) 代表的な5種類の語句の並べ方 (文型) 続き	英語の基本的な語順と文型 (SVOO, SVOC) についての理解を深める。	
		4週	Lesson 1: 現在形 / 現在進行形 Lesson 2: 過去形 / 過去進行形	時制 (現在形・過去形)、進行形 (現在進行形・過去進行形) について復習するとともに、それらの形が表す時間の幅について理解を深める。	
		5週	Lesson 3: 未来表現	未来を表す表現 (will, be going to) について復習し、用法の違いを理解する。また現在進行形や現在形で表される未来があることを学ぶ。	
		6週	Lesson 4: 現在完了形 (完了・結果 / 継続) Lesson 5: 現在完了形 (経験)	現在完了形の概念と基本的な用法を理解する。	
		7週	Lesson 4: 現在完了形 (完了・結果 / 継続) Lesson 5: 現在完了形 (経験)	現在完了形の概念と基本的な用法を理解する。	
		8週	後期中間試験、答案返却及び解説	第1週から第7週の学習内容が定着しているかを確認する。試験のふりかえり及びポートフォリオの記入を行う。	
	4thQ	9週	Lesson 5: 過去完了形	過去完了形の概念と基本的な用法を理解する。	
		10週	Lesson 5: 過去完了形	過去完了形の概念と基本的な用法を理解する。	
		11週	Review Exercise 1 / Project Work A	文型・時制の練習問題を通して、第1週から第10週の学習内容の定着を図る。またパラグラフ・ライティングの基礎を学ぶ。	

	12週	Lesson 6: 助動詞 1 (許可・可能/義務)	助動詞を用いて話者の主観的な判断を加える方法について学ぶ。
	13週	Lesson 7: 助動詞 2 (推量)	助動詞を用いて話者の主観的な判断を加える方法について学ぶ。
	14週	Lesson 8: 受動態 1 (基本の形/by以外の前置詞)	受動態の表し方とその意味について復習し、理解を深める。
	15週	Lesson 9: 受動態 2 (助動詞+受動態/SVOO・SVOC)	助動詞を含む受動態の作り方やSVOO・SVOCの能動態の文を受動態にする方法を学ぶ。
	16週	学年末試験、試験答案の返却及び解説	第9週～第15週の学習内容が定着しているかを確認する。試験のふりかえり及びポートフォリオの記入を行う。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	2	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	2	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	2	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
			中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	2	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
		英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	1	後2,後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	1	後1,後2,後4,後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	1	後2,後5,後7,後11,後13
			平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	1	後2,後5,後7,後9,後11,後13,後16
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	1	後2,後9,後11,後13,後16
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	2	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	1	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15
		英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	1	
			英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	1	

			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	1	
			関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	1	
			関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	1	
			実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	1	

評価割合

	定期試験	発表	課題・平常点	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	30	0	0	0	100
基礎的能力	70	0	30	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0